

藤原良章教授 年譜と業績

年譜

一九七四年	四月一日	東京大学 文学部 国史学科（至、一九八〇年三月三十一日）
一九八〇年	四月一日	両国予備校 非常勤講師（至、一九八二年三月三十一日）
一九八一年	四月一日	東京大学大学院 人文科学研究科（至、一九八三年三月三十一日）
一九八四年	四月一日	東京大学 史料編纂所中世史料部 助手（至、一九八六年三月三十一日）
一九八六年	四月一日	青山学院大学 文学部 史学科 専任講師（至、一九九〇年三月三十一日）
一九八九年	四月一日	中央大学 文学部 非常勤講師（至、一九九四年三月三十一日）
一九九〇年	四月一日	青山学院大学 文学部 史学科 助教授（至、一九九八年三月三十一日）
一九九六年	四月	横浜市お伊勢山・権現山周辺文化調査団
一九九八年	四月	青山学院大学 文学部 史学科 教授
一九九九年	四月一日	明治大学 文学部 非常勤講師（至、二〇〇二年三月三十一日）
二〇〇二年	四月	鎌倉市緑政審議会委員 委員
二〇〇四年	四月一日	立正大学 大学院文学研究科 非常勤講師（至、二〇〇六年三月三十一日）
二〇〇四年	四月一日	成蹊大学 文学部 非常勤講師（至、二〇〇七年三月三十一日）
二〇〇四年	一〇月	相模原市文化財保護審議会委員 委員
二〇〇六年	四月一日	日本女子大学 人間社会学部 非常勤講師（至、二〇〇九年三月三十一日）
二〇一一年	四月一日	日本の道の歴史 体系化事業 中世分科会 委員（至、二〇一三年二月）
二〇二二年	三月三十一日	青山学院大学定年退職

業績

〔凡 例〕

- 一、単著、編著・共著・共編著、論文、学会発表・講演、その他の五項に分類し、年代順に掲載した。
- 一、目録に掲載した論文等のうち、増補・訂正・改稿等を経て、単著『中世的思维とその社会』に収録されたものについては、*の略号を付し、改題されているものは括弧内にその題を記した。
- 一、前項で挙げた単著以外に再録されたものについては、その旨を別途注記した。
- 一、辞典・事典類の執筆項目については省略した。
- 一、作成にあたっては可能な限り原本との照合をおこなったが、照合できなかったものもある。

【単 著】

- 『中世的思维とその社会』 吉川弘文館
『中世のみちと都市』(日本史リブレット二五) 山川出版社
一九九七年 五月
二〇〇五年 九月

【編著・共著・共編著】

- 『説話絵巻 庶民の世界(復元の日本史)』(共著) 毎日新聞社 一九九一年 四月
『絵巻に中世を読む』(五味文彦と共編) 吉川弘文館 (分担) 「絵画史料研究をめぐって―問題提起にかえて―」
一九九九年 一月
『中世のみちと物流』(村井章介と共編) 山川出版社 (分担) 「中世の交流と物流―問題提起にかえて―」
二〇〇四年 六月
『中世のみちを探索』(編著) 高志書院 (分担) 「はじめに」, 「中世のみち探訪」
二〇〇五年 六月
『中世のみちと橋』(編著) 高志書院 (分担) 「中世のみちと橋」刊行にあたって
二〇〇七年 六月
『中世の宿と町』(飯村均と共編) 高志書院 (分担) 「中世の都市とみちをめぐって」
二〇一四年 二月
『中世人の軌跡を歩く』(編著) 高志書院 (分担) 「後三年合戦絵詞」の世界」

【論文】

「消えゆく中世の常陸―真壁郡庄長岡郷故地を歩く―」（榎原雅治・服部英雄・山田邦明と共同執筆）『茨城県史研究』四一号 一九七九年 三月

「再録」清水亮編著『常陸真壁氏』（シリーズ・中世関東武士の研究 第一九巻）戎光祥出版（二〇一六年三月）

「鎌倉幕府の庭中」＊『史学雑誌』九二編一二号

「再録」大石直正・柳原敏昭編『中世社会の成立』（展望日本歴史 九）東京堂出版（二〇〇一年五月）

「随想 樹の上」＊（「中世の樹の上で」）『遙かなる中世』六号

「公家庭中の成立と奉行―中世公家訴訟制に関する基礎的考察―」＊『史学雑誌』九四編一一号

「中世前期の病者と救済―非人に関する一試論―」＊『列島の文化史』三 日本エディタースクール出版部

「訴状与訴状者背武家之法候―庭中ノート―」＊『史友』二一〇号

「買えなかった一通の文書から―花押が語る足利直冬―」＊（「花押が語る足利直冬」）『遙かなる中世』七号

「中世の食器・考―（かわらけ）ノート―」＊（「中世の食器―（かわらけ）ノート―」）『列島の文化史』五 日本エディタースクール出版部

一九八八年 五月

「再録」『台所・食器・食卓』（全集 日本の食文化 第九巻）雄山閣出版（一九九七年七月）

「法螺を吹く」＊（「法螺をふく―若干の展望にかえて―」）網野善彦ほか編『ことばの文化史「中世 三」』平凡社

「絵画史料と（職人）―絵巻物に描かれた土器造り―」＊ 石井進編『中世をひろげる―新しい史料論をもとめて―』吉川弘文館 一九九一年 一月

「中世芸能の歴史的位置―田楽を中心に―」網野善彦編『中世を考える 職人と芸能』吉川弘文館

「絵画史料論の試み―烏帽子の中を覗く―」網野善彦・石井進・谷口一夫編『中世資料論の現在と課題』名著出版

「ある芸能の系譜とその空間―東湖八坂神社祭―」五味文彦編『中世の空間を読む』吉川弘文館

「伊豆韮山円成寺遺跡と中世東国史をめぐって」『月刊歴史手帖』一三三―九

「絵画史料論」朝尾直弘ほか編『岩波講座 日本通史 別巻三』岩波書店

「忘れられた橋」『季刊 文学』七卷二号

「穢忌避観念の発達と身分制」『日本の古代をひらく』（「情況」別冊）情況出版

一九九六年 五月

- 「大楯遺跡と中世出羽国」『月刊歴史手帖』二四―一〇 一九九六年一〇月
- 「都市の〈職人〉と文学」久保田淳ほか編『岩波講座 日本文学史 卷六』岩波書店 一九九六年一月
- 「鎌倉幕府と中世松島寺」『月刊歴史手帖』二五―一 一九九七年一月
- 「中世人の宇宙観・かわらけ」『大航海』一四 一九九七年二月
- 「絵巻の中の橋」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第八集 一九九七年六月
- 「中世の芸能」黒田日出男編集協力『ものがたり日本列島に生きた人たち 五 絵画』岩波書店 二〇〇〇年一月
- 「絵画史料にあらわれた道路と景観」『古代交通研究』一〇号 二〇〇一年二月
- 「やぐらと六浦」『中世の六浦を歩く―朝比奈切通から称名寺へ―』横浜市教育委員会 二〇〇一年三月
- 「館・集落の景観」東北中世考古学会編『掘立と竪穴』（東北中世考古学叢書 二）高志書院 二〇〇一年一月
- 「中世人の生活と信仰」近藤成一編『モンゴルの襲来』（日本の時代史 九）吉川弘文館 二〇〇三年二月
- 「中世の市庭」網野善彦ほか編『莊園の構造』（講座日本莊園史 三）吉川弘文館 二〇〇三年五月
- 「中世都市と交通体系」歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 四 中世社会の構造』東京大学出版会 二〇〇四年九月
- 「絵画資料再論」小野正敏ほか編『モノとココロの資料学』（考古学と中世史研究 二）高志書院 二〇〇五年四月
- 「中世の出羽―陸・海・川の交通をめぐって―」東北中世考古学会編『海と城の中世』（東北中世考古学叢書 四）高志書院 二〇〇五年一〇月
- 「都市を区切ること―問題提起にかえて―」中世都市研究会編『都市を区切る』（中世都市研究 一五）山川出版社 二〇一〇年九月
- 「庭中・寄沙汰」土方洋一・渡辺節夫編『国家と言語―前近代の東アジアと西欧―』弘文堂 二〇一一年三月
- 「中世の那須野を歩く―中世のみち現地調査報告―」（鈴木沙織・田中信司・増田翔太と共同執筆）『青山史学』三〇号 二〇一二年三月
- 「中世の交通路」『道』の文化史―街道が育んだ豊かな歴史―（地域再発見BOOKS③）公益社団法人 中国地方総合研究センター 二〇一三年二月

【学会発表・講演】

「中世前期の病者と救済」 第八一回史学会大会日本史部会 口頭報告

一九八三年十一月三日

- 「絵画資料論の試み―烏帽子の中を覗く―」考古学と中世史シンポジウム「中世資料論の現在と課題」
 一九九三年 七月 三日
- 「問題提起」史学会例会シンポジウム「絵巻に中世を読む」
 一九九四年 七月 九日
- 「問題提起」中世みちの研究会 第一回研究集会「発掘された中世古道 Part1」
 一九九八年 四月 一八日
- 「問題提起」史学会例会シンポジウム「道・宿・湊―中世の交流と物流―」
 一九九八年 九月 二六日
- 「シンポジウム 六浦・金沢の歴史を考える Part2」(峰岸純夫と討論司会)
 一九九八年 二月 一九日
- 「問題提起」中世みちの研究会 第二回研究集会「発掘された中世古道 Part2」
 一九九九年 五月 二九日
- 「問題提起」中世のまち探訪 中世みちの研究会 第三回研究集会「発掘された中世古道 Part3」
 二〇〇〇年 六月 三日
- 「国際学術シンポジウム二〇〇〇」日本」と異邦」(渡辺節夫と討論司会)
 二〇〇〇年 二月 一日
- 「中世のまちと橋をめぐって―問題提起にかえて―」中世みちの研究会 第四回研究集会「中世のまちと橋を探る」
 二〇〇一年 六月 一六日
- 「荒井猫田遺跡を考える―中世的都市世界―」第七回市内遺跡発掘調査成果展記念講演会(郡山市民文化センター)
 二〇〇一年 七月 二九日
- 「問題提起」中世みちの研究会 第六回研究集会「中世後期へ」
 二〇〇三年 六月 七日
- 「中世の出羽―秋田県域を中心に―」(講演)
 二〇〇三年 六月 七日
- 「海と城の中世―小鹿嶋、脇本城―」(討論、飯村均とコーディネーター)
 二〇〇三年 九月 二七日
- 東北中世考古学会第九回大会(秋田大会)「中世出羽の諸様相―寺院・生産・集落城館―」
 二〇〇三年 九月 二七日
- 「平泉と中世社会」「平成一六年度公開講座・遺跡報告会」(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)
 二〇〇四年 一月 二二日
- 「絵画資料論」考古学と中世史シンポジウム「中世資料論の新段階―モノとココロの資料学―」
 二〇〇四年 七月 三日
- 「中世の開幕」第一回ちば興銀コスモスセミナー 公開講座 ちば県の歴史「海から見た ちば県の歴史―東京湾を通した視点」
 二〇〇四年 一〇月 三日
- 「東国の道についてのコメント」第二六回平安京・京都研究集会「都の東と西―中世・近世洛外交通―」
 二〇〇六年 七月 二三日
- 「中世の都市とみちをめぐって」(基調講演)、「討論 荒井猫田遺跡をめぐって」(飯村均と司会)
 二〇〇六年 七月 二三日
- 「シンポジウム 中世の都市とみち―荒井猫田遺跡をめぐって―」
 二〇〇六年 七月 二九日
- 「中世におけるあそび」日本体育学会第五七回大会 組織委員会企画シンポジウムⅠ
 二〇〇六年 七月 二九日

- 「あそびとスポーツ…過去の歴史から『日本人とスポーツ』の未来を展望する」
二〇〇六年 八月一九日
- 「中世の michi をめぐって」(基調講演 第二一回北陸中世考古学研究会「北陸中世のみち」)
二〇〇八年 二月一三日
- 「問題提起」中世都市研究会第一五回研究集会「都市を区切る」
二〇〇九年 九月 五日
- 「中世の道を巡って―頼朝が奥州征伐に向かった道を吾妻鏡から考える―」六人会 講演会「六人衆の道案内シリーズ」
一三二
- 「中世のみちと都市」埼玉県立嵐山史跡の博物館 歴史講座 第三六回「中世の道 鎌倉街道」
二〇〇九年 九月二二日
- 「後三年合戦絵詞の世界」(講演) 平成二三年度後三年合戦シンポジウム(横手市)「日本史における後三年合戦の意義」
二〇一一年 七月二二日
- 「かわらけの歴史的意義」(基調講演)「安倍氏の器検討会―鳥海柵出土遺物を中心に―」(金ヶ崎町)
二〇一二年 一月二八日
- 「後三年合戦の位置づけ」(パネルディスカッション)
二〇一四年 一月一九日
- 「平成二六年度 後三年合戦シンポジウム―日本史における後三年合戦の位置づけ―」(横手市)
二〇一四年 一月一九日
- 【その他(書評・史料紹介・解説・インタビュー等)】
- 「常陸国真壁郡「竹来郷」調査記」(松本卓三・山田邦明・片山純子・松尾慶三と共同執筆)『遙かなる中世』三号
一九七九年 七月
- 「新村拓著『日本医療社会史の研究古代―中世の民衆生活と医療』」(新村紹介)『史学雑誌』九四編七号
一九八五年 七月
- 「中世を遍歴した人びと」(解説)『太陽』二九一(弁慶伝説を訪ねる)
一九八六年 五月
- 「足利直冬の花押」*『青山史学』一〇号
一九八八年 三月
- 「河野勝行著『障害者の中世』」(新村紹介)『史学雑誌』九七編六号
一九八八年 六月
- 「中野豈任著『祝儀・吉書・呪符―中世村落的祈りと呪術―』」(中世史研究選書)『忘れられた霊場―中世心性史の試み―』
一九九〇年 二月
- (平凡社選書二二三)(書評)『史学雑誌』九九編二号
一九九〇年 三月
- 「新村拓著『死と病と看護の社会史』」(新村紹介)『史学雑誌』九九編三三号
一九九〇年 五月
- 「一九八九年の日本歴史学界―回顧と展望―日本(中世)七」(分担)『史学雑誌』九九編五号
一九九〇年 五月
- 「ありんことごくつぶし―日本中世史の視点から―」『青山コンピュータ・サイエンス』一八巻二号
一九九〇年 二月

「再録」『午夢抄』（二〇一四年三月）

「中世の〈芸能〉と〈民衆運動〉」（科研・分担）『世界諸地域の「近代化」による都市の変容と民衆運動』（代表…加茂雄三）一九九一年～九二年度

「書評と紹介 三浦圭一『日本中世民史の研究』（書評）『日本歴史』五二六号」一九九二年 三月

「絵画の中の女性と職人」瀬田勝哉責任編集『見る・読む・わかる 日本の歴史二 中世』朝日新聞社一九九三年 二月

「七十一番職人歌合職種一覽」（岩崎佳枝・網野善彦・高橋喜一・塩村耕と共同で解説）

『七十一番職人歌合・新撰狂歌集・古今夷曲集』（新日本古典文学大系 六一）岩波書店

「骨折り損？」『史学会報』（青山学院大学史学会）第一号

「史料紹介 『新猿楽記』（史料紹介）『歴史と地理』四六六号

「一九九四年の歴史学界―回顧と展望―日本（中世）八」（分担）『史学雑誌』一〇四編五号

「〈粗末〉な橋」『本郷』六

「特集にあたって」（日本史特集 本学における日本史研究の現在）『史友』二八号

「お伊勢山・権現山と交通の関係をめぐって」金沢八景御伊勢山・権現山周辺文化財調査団編

『平成八年度金沢八景御伊勢山・権現山周辺文化財調査報告書』

「特集に当たって」（特集・紀伊国阿弓河荘故地を訪ねて）『史友』三〇号記念号

「要望書」（荒井猫田遺跡の調査）（網野善彦ほかと連名）

「再録」『シンポジウム 荒井猫田遺跡と中世の郡山』荒井猫田遺跡を考える会（一九九九年四月）

『シンポジウム 中世の都市とみち―荒井猫田遺跡をめぐって―』荒井猫田遺跡を考える会ほか（二〇〇六年七月）

「鎌倉街道―すべての道は鎌倉へ―」石井進編『もののふの都 鎌倉と北条氏』（別冊歴史読本三〇 二四卷三〇号）

「〈シンポジウム〉「道・宿・湊―中世の交流と物流―」問題提起」『史学雑誌』一〇七編一 一号

「賢問愚問―田楽について―」『歴史と地理』五二七号

「特集にあたって」（特集・続 紀伊国阿弓河荘故地を訪ねて）『史友』三二号

「高桑・山口、伊藤両報告へのコメント」『都市の求心力―城・館・寺―』（中世都市研究 七）新人物往来社

- 「討論」(『国際学術シンポジウム二〇〇〇「日本」と異邦』『史友』三三三号) 二〇〇一年 三月
- 「保立報告へのコメント」『都市と職能民』(中世都市研究 八) 新人物往来社 二〇〇一年 九月
- 「お願い」石井進先生を偲ぶ会編『であいの風景』新人物往来社 二〇〇二年 三月
- 「奥大道―姿を現した中世のみち―」『白い国の詩』五五八号 東北電力株式会社地域交流部 二〇〇三年 二月
- 「一遍聖絵と中世史研究」(概略報告)『研究発表と座談会 一遍聖絵の諸相』(仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書 第三十冊) 二〇〇三年 三月
- 「津・港・渡し」の景觀―中世の海上・水上交易―『地名を歩く』(別冊歴史読本八二 二九卷二三号) 二〇〇四年 三月
- 「鋭い眼光と無邪気さ」(追悼 網野善彦) (追悼文)『月刊百科』四九九 平凡社 二〇〇四年 五月
- 「再録」赤坂憲雄編『追悼記録 網野善彦』洋泉社(二〇〇六年一〇月) 二〇〇四年 七月
- 「『信西古楽図』をめぐる」(コラム)小野正敏ほか編『中世の系譜』(考古学と中世史研究 一) 高志書院 二〇〇五年 三月
- 「追悼 沼田哲先生」(追悼文)『史友』三七号 二〇〇五年 五月
- 「解説」(高田陽介と共同執筆)『中世都市を語る』(石井進著作集 九) 岩波書店 二〇〇六年 八月
- 「中世におけるあそび」(発表要旨)『日本体育学会予稿集』五七 二〇〇六年 十一月
- 「後三年合戦とかわらけ」『清原のかわらけ』横手市教育委員会 二〇〇七年 八月
- 「藤原良章コメント」(コメント) 青山学院大学文学部日本文学科編『海を渡る文学―日本と東アジアの物語・詩・絵画・芸能―』新典社 二〇〇八年 三月
- 「特集にあたって」(特集 日本史研究の現在)『青山史学』二六号 二〇〇八年 二月
- 「シンポジウム参加記」(シンポジウム「再考 上行寺東遺跡と中世の六浦」)『神奈川地域史研究』二六 二〇〇八年 四月
- 「解説―沈黙する資料たち」(解説) 網野善彦・石井進・福田豊彦『沈黙の中世』(平凡社ライブラリー) 平凡社 二〇〇九年 五月
- 「後三年合戦絵詞の世界」『平成二二年度 後三年合戦シンポジウム―日本史における後三年合戦の意義―』(資料集) 横手市教育委員会 二〇一一年 五月
- 「解説―職人歌合の可能性」(解説) 網野善彦『職人歌合』(平凡社ライブラリー) 平凡社 二〇一二年 五月

「中世の大道―歴史の舞台」(特別寄稿 日本のだと国土の形成【中世編】)『人と国土21』第四〇卷六号

二〇一五年 三月

【科学研究費補助金他】

一般研究(B)「世界諸地域の「近代化」による都市の変容と民衆運動」(分担、代表…加茂雄三)

一九九一～九二年度

基盤研究(B)「吾妻鏡と中世都市鎌倉の多角的研究」(分担、代表…五味文彦)

二〇〇三～〇五年度

基盤研究(B)「歴史史料と中世都市の情報学的研究」(分担、代表…本郷和人)

二〇〇六～〇九年度

基盤研究(B)「日本における漁業・漁民・漁村の総合的研究」(連携、代表…岩田みゆき)

二〇〇六～一〇年度

福島県いわき市いわきセミナランド推進事業「菊田庄の中世的景観復元の試み」(代表)

二〇〇〇年度

財団法人高速道路交流推進財団「日本の道の歴史」体系化事業(中世分科会代表)

二〇〇八～一二年度